多文化共生事業事例集

年度
R７

団体名	仙台観光国際協会（宮城県）	助成金名：多文化共生のまちづくり促進事業 事業費総額：1,320千円
事業名	外国につながる子どもの中学校生活適応及び進学支援	
概要	外国につながる中学生等や学齢超過者が、日本の高等教育制度や進学の仕組みを理解し、自らの将来を考える機会を得られるよう、高校見学会・先輩体験談交流会・進路支援ウェブサイトによる総合的な支援事業を実施する。	

事業のポイント

●来日して日本の中学校に編入する子どもや、学齢を超過して来日し高校進学を目指す子どもに対して、中学生活への適応及び進路実現に向けた支援を実施。

●進路支援ウェブサイトの活用や先輩との交流・高校見学を通じて、子ども達自身が将来を見据えたキャリア形成について考えることができる機会を設ける。

事業の背景・目的

●仙台市立の小中学校に在籍する外国人児童生徒数はここ数年で２倍以上に増加している。現在、外国につながる児童生徒数は800人以上となっており、高校進学を目指し定住希望の子どもたちも増えている。また学齢超過で来日する子どもも増加傾向にある。

●こうした子どもたちとその保護者は、日本の教育制度や高等教育に関する知識が乏しく、言葉の壁等から学校から提供される情報も十分に理解することが難しい。特に学齢超過者は中学校に所属していないため、情報収集が困難で同世代との情報交換もできないため、結果として進路が狭まるケースが出てきている。

事業の詳細

１．外国につながる生徒等のための高校見学会

●内容：高校見学、学校紹介、入試制度説明
（先生からの話を聞いた後に、授業見学も実施）

●参加者数：延べ15名
（内訳：生徒等※7名、保護者等8名）
※うち学齢超過者6名

●振り返り会
学校と当日の運営や参加者アンケート等の分析を実施

●事業の進め方
（１）協力校決定（２）参加者の募集（チラシを多言語で作成）、市教育委員会に広報依頼（３）見学会実施（公立・私立各１校）（４）振り返り会の実施（オンライン）

２．先輩体験談交流会（外国につながる生徒等のための交流会）

●内容
・先輩の話（高校の入学試験、／日本語の勉強／高校生活）
学齢途中で来日し、高校受験を経て市内の高校に通う生徒２名に依頼
・自分の「好き」から将来について考えるワークショップ
仕事を探す手助けとなるワークシートやオリジナル冊子を作成
・簡単な日本語で実施、参加者の状況に応じて通訳者も手配。

●参加者数：26名
（生徒等※７名、先輩サポーター 13名、
保護者6名）※うち学齢超過者2名

●事業の進め方
（１）企画検討会（２）発表者の決定
（３）先輩サポーターの募集
子ども支援団体、外国につながる高校生グループ、
大学などを通して10名程度が参加
（４）参加者の募集
市教育委員会に広報依頼、当協会で相談を受けた学齢超過者家族には別途参加案内を送信、協会のSNS等でも広報

３．進路支援ウェブサイト（https://int.sentia-sendai.jp/child/advance/j/）

●事業の進め方
（１）企画検討（２回）
子ども支援コーディネーターから必要項目等について助言
（２）高校進学制度や在留資格等の内容について、関係機関への相談、原稿確認等協力依頼
依頼先：仙台市教育委員会高校教育課、仙台出入国在留管理局、行政書士
（３）ウェブサイト掲載原稿の作成と翻訳
検討及び関係機関の確認等を経て掲載原稿（日本語）を作成
英語、中国語、ネパール語への翻訳も実施

事業実施における工夫・事業の成果等

●報告記事の作成と周知

協会ウェブサイトに高校見学会、先輩体験談交流会の報告記事を掲載した。次年度以降の広報にも活用する。

・高校見学会の報告：https://int.sentia-sendai.jp/blog/j/j-32493/

・先輩体験談交流会の報告：https://int.sentia-sendai.jp/blog/j/j-33254/

●アンケート結果

・公立高校見学会　理解度：大変よく分かった50%、わかった50%

・私立高校見学会　理解度：大変よく分かった60%、わかった40%

・先輩体験談交流会

（参加者側）

先輩発表：参考になった75%、大変参考になった25%

ワークショップ（共有・発表等）：よくできた50%、できた25%、あまりできなかった25%

（先輩サポーター側）

先輩発表：大変勉強になった85.7%、勉強になった14.3%

ワークショップ（共有・発表等）：よくできた71.4%、できた28.6%

今後の課題・将来に向けての展望等

●高校見学会

・協力校の受け入れ体制の事情もあり、定員を当初予定よりも少なく設定することになった。また平日開催となったため、授業や部活動などで参加が難しい中学生もいたと思われる。

・一方で、本事業の重点対象者である学齢超過の子どもの参加は多く、ニーズに対応することができた。

・市内には外国につながる子どもが入学している高校はまだ少なく、受け入れ校を増やしていくためにも、見学会に協力いただける高校も増やしていきたい。

●先輩体験談交流会

・参加者から「先輩の話を聞いたあとに自信がついた、これからもっと勉強をしたい」「自分と同じように海外から来た先輩の話をきいて、自分と同じ気持ちであることが分かった」など、ロールモデルからこれまでの経験や前向きな話を聞き、参加者がモチベーションを向上させる一助になったと感じた。

・将来を考えるワークショップでも、先輩サポーターがうまくリードしながら活動に取り組めていた。ワークショップでは母語で考え、記入できるようにしていたが、全体共有の時間では、参加者全員がサポーターと一緒に練習した日本語で発表した。

・参加者の半数以上は中学校に在籍している生徒だったが、普段の学校生活では同じ境遇の同世代や先輩と交流する機会が少ないため、次年度以降も、交流の場を提供していきたい。

●進路支援ウェブサイト（外国につながる子どものための高校進学サイト）

・助成金を活用して４言語（日本語、英語、中国語、ネパール語）で作成した。今後、韓国語とベトナム語の作成を予定している。

・サイトの利用促進のため、チラシを作成し広報していきたい。

・内容の更新については、最新の情報を掲載できるよう、年度１回など定期的に確認していきたい。

事業担当者の振り返り

中学生や学齢超過者を対象に、日本の高校について知る機会や、ロールモデルとの出会い・交流、将来について考えるワークショップを提供することができた。

また、各事業では通訳者を手配し、参加者の日本語能力に応じて、母語でも参加できる環境を整えたことで、内容への理解を深めることができた。

今後も、外国につながる子どもや若者たちが安心して一歩を踏み出せるよう、さまざまな取り組みを継続していきたい。